

「基地村の隠された真実-2 番目の物語-」より抜粋

はじめに

セウムトは 1996 年に東豆川で最初の活動を開始して以降、多くの基地村女性と恨（ハン）の多い別れをしてきました。長い歳月を病魔と闘って亡くなった方もあり、もうこれ以上厳しい世の中に耐え切れず自ら命を絶った方もあり、今も変わらぬ犯罪の犠牲になった方もあり、このようにして多くの基地村女性が私たちの元から旅立っていかれています。彼女たちの生命の最後の瞬間を見守りながら、その恨をどのようにして解き、彼女たちの遺言をどのようにして守っていかねばならないのかが、常に心の中の借りとなっていました。

彼女たちは、最後の瞬間まで「韓国政府と米国政府がどのように基地村女性を管理し、基地村女性を抑圧したのか」についての重要な歴史的事実と「過去にとどまらず明白に現存している」被害者の苦痛について証言してくれました。そしていつの日か両国政府が基地村女性に謝罪し補償するようになるだろうという確信を捨てませんでした。このようにむなしく基地村女性たちを看取りながら、私たちは徐々に苛立ちを感じるようになってきました。

韓国政府と米国政府に向かって謝罪と補償をせよと一度もまともに要求できないままに、この人たちの死とともに歴史の真実と被害者たちの悔しさが歳月に埋もれていきそうでした。そんななかで、同僚の虚しい死を見守っていた生き残りの基地村女性たちがこれ以上闘うことを後回しにはできないと決心し、2008 年 10 月に基地村女性生存者委員会が結成されるに至りました。そして基地村女性生存者委員会の活動に参加された 8 人の基地村女性たちの最初の活動が 1960 年代から 1990 年代に至る基地村での経験についての証言だったのです。この証言を集めてセウムトは 2008 年 11 月 27 日、最初の基地村女性証言資料集を発刊し、討論会を開催しました。

この証言資料集と討論会は韓国内よりも外国からいっそう注目されました。韓国とともにもう一つの当事国である米国で大きな関心を引き起こしたことは、見ようによっては当然のことかもしれません。2009 年 1 月ニューヨークタイムスは、特集記事として生存者たちの証言を記事にしました。ニューヨークタイムスは『韓国政府は最近の数年間、日本の戦争の歴史の醜い面であった「日本軍に提供された売春施設で働くために韓国と他の国家からやってきた女性たちに対する奴隷制」を作った責任に対して、日本政府のあいまいな態度に対して強く非難してきた』と説明しつつ、次のように基地村女性生存者たちの証言を詳しく報道しました。

『(生存者たちは) 1960年代から1980年代まで性売買を直接に管理しており、米軍のために性病にかかっていない性売買女性を提供するために検査と資料システムをともに構築していた韓国政府と米軍を非難している。その女性たちは、彼女たちがその期間に韓国政府や米軍の公務員たちによって性売買で抑圧されたという事実を主張できなかった間、韓国自身の歴史は認めないのに日本から賠償を求める韓国政府の持続的な偽善を非難している』と報道しました。また『韓国政府は米軍のための巨大な抱え主でした』と主張した一人の生存者の主張を掲載したこともありました。

この記事は、以降、国内外から大きな反響を引き起こしました。より多くの基地村女性生存者たちが証言活動に参加するという意思を明らかにし、60-80年代に駐韓米軍に勤務していた米軍の目撃者たちの証言も相次ぎました。しかしこのような証言と活動にもかかわらず、依然として両国政府はこの問題を公式に認めようとはせず、被害者たちのための社会的支援もまったくない状態です。基地村女性たちは日々衰弱していくのに、いまだ前途は遠いようで残念です。

だから生存者たちはその証言活動を続けていこうと思います。苦痛に満ちた経験を再経験することは、記憶の事実性の有無を質す人々の前で過去の記憶をもう一度再構成せねばならないことは、生存者たちにとっては本当に辛い過程です。しかし両国政府が真実を明らかにし、被害者に謝罪し補償するときまで、生存者たちは証言活動を止めないという決心をしています。韓国社会が黙認してきた国家的犯罪を必ずや暴露しようと決心しています。

編集部注：特集2に収録した諸文書は、韓国で基地村女性問題に取り組んでいるセウムトが発行した2つの資料集から訳出したものである。まず、2009年11月29日に発行された資料集「基地村の隠された真実—二番目の物語—」より「はじめに」を抜粋翻訳し、続いてその一年前の2008年11月27日にセウムトが主催してソウル市で開かれた「基地村女性問題解決のための代案模索討論会」資料集の全文を訳出・掲載した。